

令和7年度 第5回 地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 議事要旨

日 時 : 令和8年1月16日(金)午後3時00分から午後4時40分まで
場 所 : 大牟田市立病院3階 第301会議室

○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員

一宮委員長、富安副委員長、河野委員、池上委員、赤星委員
事務局等 : 松島保健福祉部長、龍保健福祉副部長、大曲保健衛生課長ほか
鳥村理事長、倉本副理事長、村上理事、福森理事、森崎理事、城戸理事ほか

1 開 会

2 議事要旨

(1) 第5期中期目標(案)について

第5期中期計画の認可について委員会へ諮問。
第5期中期計画(案)を説明後、質疑応答。概要については次のとおり。

●第2-2-(1)がん診療の取組(重点)の関連指標において、がんセンターボード症例数が令和2年度の実績が206例で令和6年度の実績は83例となっており、半数以下になっているのはなぜか。

資料を持ち合わせていないため、後日、回答する。

⇒(回答内容)以前は、内科・外科カンファとして、非がんの患者さんも含め、業務時間終了後に遅くまで残って対応していたが、働き方改革の流れもあり、現在はがんの患者さんに限り症例を絞って対応することとしたため件数は減少している。

●第2-2-(2)救急医療の取組(重点)の関連指標において、救急車の応需率が加えられたことは素晴らしい。現在、救急車の断り事例の検討会などの開催はあるか。

開催実績はない。

●第2-2-(2)救急医療の取組(重点)の関連指標において、救急車の応需率が消防本部からのデータで92.2%とあるが、素晴らしいと思う。救急が非常に問題になっている筑後地域の中で、大牟田市消防で対応される救急の何%が大牟田市立病院へ運ばれているのか。

救急搬送に関する割合は、令和6年度で31%、令和7年12月まで32%となっている。

大牟田市は機能分化が比較的進んでいることで、消防でのトリアージが出来ており、さらに市立病院で適切な医療が行われるよう救急隊との連携がとれているため、32%という数値となっていると思われる。管外搬送は少なく、数パーセント程度である。

●第2-2-(4)災害等への対応において、病院としてのBCP(事業継続計画)は作成されており、それに準じた訓練がされていると理解してよいか。

災害拠点病院として、BCPは作成済みであり、その他、各種災害のマニュアルも作成している。それらに基づいた訓練を年2回(上半期に1回、下半期に1回)実施するよう計画している。

●第2-3-(2)逆紹介率の目標値が90%となっているが、地域医療機関との役割分担と連携を考えると現状の120%を超えても構わないので、是非とも周知し、継続的に推進していただきたい。

●第3-1-(1)医師の働き方改革はA水準のままで大丈夫か。変更は可能なので、医師の働き方改革と地域医療の両方のバランスを考えて、臨機応変に対応していただきたい。

●第3-2-(1)病床稼働率76.6%は低いが、人口が減っているから仕方がないのかもしれない。

●第3-2-(1)入院単価が低いような気がするが、施設基準とか、取れていないものがあるれば、取る努力をしていただくと全体的にアップすると思う。

●第4-1-(1)運営費負担金比率が低いが病院運営を努力してこられたということで感心している。昨今の物価上昇、人件費の高等を考えると支出が増えると思うが、行政としてどう考えるか。

今回、第5期中期目標、中期計画を作成するにあたり、病院と行政で協議を重ね、繰出基準や様々な基準に基づく対応の見直しを行った。

●第4-1-(1)公立病院経営強化ガイドラインの中に修正医業収支比率を出すようになっており、令和6年3月に策定された、市立病院経営強化プランの中にも記載がある。運営費負担金比率と関連すると思うが、関連指標にあげないのか。

従前から、医業収支比率で目標設定しており、その数値が大きく変わらない方がよいのではと考えた。また、運営費負担金比率を新しい指標として加えることで、補助金や運営費負担金のボリュームに対してイメージを持ちやすくなるのではないかと考え、医業収支比率のままとした。

※ ●第4-1-(2)設備投資に向けた財源の確保についての文章が財源の確保という内容と一致していないので、何か一言付け加えた方がよいのではないか。

ご指摘のとおり、タイトルと文章の内容がそぐわない表現になっているので、表現を検討する。

●診療報酬改定を踏まえて、随分赤字が減るのではないかと期待していた、資料⑤-4の収支計画について、今後の4年間、赤字が続く計画になっている。年間約4億円の赤字の大部分は費用の増大ということをやむ得ないと思う。市立病院としてどう評価しているか。また、改善するために何か考えているか。

今回の診療報酬改定は3.09%のプラス改定との報道だが、内1.7%を処遇改善として人件費に充てるとなっており、物価や人件費上昇に伴う委託料増加等で、残りのプラス改定の大半は経費の増加に対応することになる。そのような状況を受けて、今年度から収益を上げるために、ベットコントロールをしっかりと対応している。今後も取組を継続し、1日平均入院患者数240人を目指したい。

また、収益が上がるように取れていない施設基準がないか再確認して、支出の上げ幅を縮小できるよう取り組みたい。

8年度中に新しい地域医療構想が策定されると、医療圏で医療機関同士の役割分担等が話し合われ、互いに効率化を図りながら収斂されると思う。その中で市立病院が持続可能な運営にどのように取組み、これまで通り、高度な医療を提供し続けていくのかを考えながら、第5期中取り組んでいきたい。

●※の第4-1-(2)設備投資に向けた財源の確保については、修正を行い、再提出された中期計画(案)の確認を一宮委員長に一任することになった。

(2) 第5期中期計画の認可に対する意見書(案)については、次のとおり。

●異議なく、了承される。

3 閉 会

第5期中期計画の認可については、2月議会へ議案として提出し、議決を経たあと、認可することを説明。また、今年度予定していた委員会の終了を報告し、会議を終了した。